

「クリーニングドクターの豆知識」創刊号

こうすればセーターは縮む! (ウールはなぜ縮む?)

セーターが大活躍の時期になりました。自宅でセーターを洗ったことはあると思いますが、縮んだ事はありませんか? 当店でもたまに「縮んだセーターを直して欲しい」という依頼があります。今回は“なぜウールは縮むのか”の話をしましょう。

髪の毛の表面が「キューティクル」というウロコ状のもので覆われている事は、CM等でご存知と思います。実はウール(羊毛)も髪の毛と全く同じ作りをしています。髪の毛もウールも、同じ哺乳類の体毛であることを考えたら当然ですね。ちなみにウールを覆うウロコはキューティクルではなく「スケール(ウロコという意味です)」と呼ばれます。

このスケール、普段は閉じているのですが、水に濡れると膨張して開きます。開いた「松かさ」を想像してもらおうとわかりやすいでしょう。濡れてスケールが開いた状態のウールが擦れあうと、スケール同士が引っかかってしまいます。水分が乾いてスケールが閉じても、引っかかったスケールは元には戻りません。これがいわゆる「縮み」「型崩れ」です。



この性質を利用したのが「フェルト布」です。濡れたウールにもみ等の摩擦作用を加えると、繊維同士が絡み合います。一度そうなるとほどける事はありません。以前見たテレビ番組では、モンゴル人が濡らしたウールの束をロール状に巻き、馬で引きずり回すことで摩擦を与えて布を作っていました。

フェルトが織っても編んでもいないのに「布」の状態になっているのはこういう理由です。

そしてウール製品が縮んだ状態を「フェルト化」「フェルト現象」と呼んでいます。縮んだセーターはフェルト化を起こしているのです。



さて、もうお分かりですね。濡れた状態のウールに摩擦・揉み等の力を加えると、フェルト化の原因になります。縮みやすいウール製品に「水洗い」でなく「ドライ」表示がついているのはこういう理由なのです。

ドライクリーニングでは水を使わない事は以前お話ししましたね。

家庭でウールを水洗いする際は、洗面器等で軽くやさしく押し洗いをして、極力「チカラ」を加えないこと。当然乾燥機にかけるのはNGです。とにかく開いたスケールを絡ませないことが一番大切です。

そして水温は30度までにしましょう。アタックやアリエールなどのアルカリ洗剤は使ってはいけません。

エマール・アクロン等の中性洗剤を使いましょう。ご希望の方は業務用中性洗剤を小分け販売します。

万が一縮んでしまったら… 2、3センチまでの縮みなら当店で伸ばせますが、それ以上はあきらめてください。あきらめきれないものは最初から家では洗わないことです。お客様のお気に入りの服を、永く大事に着ていただく。それが当店の仕事ですから。